



# 井原市民病院だより

No.29

2015年1月発行

井原市の花 パンジー

日本医療機能評価機構 病院機能評価Ver.6.0認定



今般、CT（コンピュータ断層撮影装置）を更新し、平成27年1月26日（月）から最先端の320列のCT装置を導入いたしました。

現在のCT（16列）と比べて、より細かく、より早く検査ができるようになり、息を止めていただく時間もわずかで、患者さんへの負担も大きく軽減されます。また、従来の装置と比べて最大75%の放射線被ばく量が低減可能となります。さらに、いままで心臓のCT検査は当院ではできず、他医療機関に紹介しておりましたが、新しいCTでは心臓の検査もできるようになりました。

## Mission (使命)

地域住民の尊厳を守り、命を守り、健康増進を支援する

## Vision (将来展望)

いつでも安心してかかる、身近で愛される急性期病院

## 今年のスローガン

急性期医療の充実とフラットな多職種協働連携チーム医療の推進

Ibara City Hospital

## 井原市立井原市民病院

〒715-0019 岡山県井原市井原町1186番地  
TEL 0866-62-1133(代) FAX0866-62-1275  
E-mail byoin@city.ibara.okayama.jp

### 診療科目

内科・循環器内科・外科・消化器外科・整形外科・眼科  
小児科・脳神経外科・放射線科・麻酔科・耳鼻咽喉科  
リハビリテーション科・婦人科・泌尿器科・皮膚科

発行責任者：山田 信行



## 急性期医療の充実に向けて

院長 山田 信行



新年明けましておめでとうございます。

皆様におかれましては、新たな抱負を持って新しい年をお迎えのことと存じます。日頃から井原市民病院の運営に

つきましては格別のご理解とご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

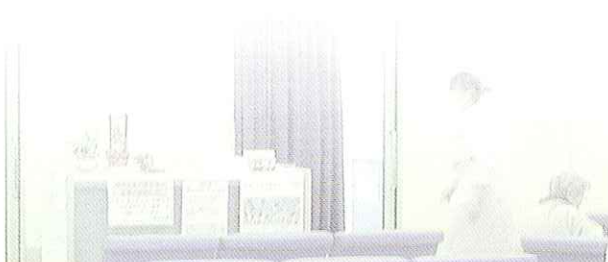
昨年も広島の予想をはるかに超えた豪雨に伴う土砂災害、御嶽山噴火など自然災害にみまわれた年でした。被災されました多くの方々に心よりお見舞い申し上げますと共に、一刻も早い復興を願っております。

まず、「地域に密着した新しいステージの病院へ」をスローガンにかかげた昨年を振り返ってみたいと思います。3月に病棟再編と職員配置換えを行い、4月に医療療養病棟を在宅復帰機能強化型にしたこと、5月に地域包括ケア病床を届け出したこと、6月に医療と福祉の結びつきを、より密接にすべく「まいづる連携」を立ち上げ、活動を開始したことは特筆すべきことでした。

更に、安心・安全な医療へ向けての組織文化の芽生えと、職員一人ひとりが積極的に勉強しスキルアップして行こう、若い人を教育していこうという組織文化の芽生えを強く感じた一年でした。この大切な芽を大事に育てて行こうと思います。

さて、今年の話題に移りたいと思います。今年には病院が大きく変わっていく転換の年の始まりになりそうです。周辺地域の状況から考えて、当院は急性期から回復期、慢性期、更に在宅医療までを幅広く担わざるをえません。この中で直近の課題は、平成28年度からのDPC（診断群包括払い方式）参入に向けて、急性期部門を強化することです。まず、1月のCT更新（東芝製320列 Aquilion ONE）からスタートします。急性期医療を充実していくためには、CTの性能向上は必要不可欠ですが、同時に私たちには、それを上手く利用する責務と地域の期待を現実のものにしていく責任があります。より質の高い、効率の良い急性期医療を目指し続けるために、職員一人ひとりの向上心と多職種協働連携チーム医療の充実を推進して行きたいと思います。関係する職員が従来業務の枠を超えて、それぞれの自主性と主体性をもって協働しながら患者さんに関わり、考え得る最良の医療を提供することに努めたいと思います。こうした思いから今年のスローガンは『急性期医療の充実とフラットな多職種協働連携チーム医療の推進』にいたしました。

本年が皆様方にとりまして良き年でありますように祈念致しますとともに、引き続き地域に密着した、より多くの人に、より愛される、より美しい病院を目指して参りますので、引き続き皆様方の一層のご支援・ご協力・ご指導をいただきますようお願い申し上げます。







皆様 新年あけましておめでございます。

皆さまにはご家族お揃いで初春を健やかに迎えられたこととお慶び申し上げます。また、皆様には平素から病院

運営にご理解、ご協力をいただいておりますことを心より厚く御礼申し上げます。

昨年を振り返り見ますと、お隣の広島県・広島市で発生した土砂災害や、御嶽山の噴火など様々な自然災害が発生いたしました。あらためて安全・安心なまちづくりを力強く推進していかなければならないとの強い思いに至った年でもありました。

地域医療を取り巻く状況は、相変わらず厳しい現状・現実が続くなか、市民病院は、この地域、井原市民にとって愛される市民病院として、また、地域の中核病院として位置付けられ市民

の期待が大きい病院であります。私も『市政は市民のためにある』ということを中心に市政の推進を図っているところであり、これからも地域住民のニーズに応え、市民皆様に、身近で愛される病院として、引き続き、充実を図ってまいります。

今年は「未年」、今年一年が平穏な年となりますこと、皆様方の一層のご活躍を心からご祈念申し上げまして初春のあいさつとさせていただきます。

どうぞ今年一年よろしく願いいたします。



## 院内接遇研修

接遇委員会 委員長  
看護部長

池田 悦子



平成26年11月27日(木)、講師に金田病院(真庭市)フロアマネジャーの細田麻衣子先生をお迎えして院内接遇研修を行いました。「笑顔の力」～医療接遇～と題した研修でした。医事課ソラスト職員を含め149名の参加がありました。当日は医師の参加が多く、「ドクターの参加がこんなに多い病院ははじめてです」と細田先生の一番の感想でした。接遇

マナーを医療サービスに置き換えた講義内容は今すぐに実践できそうな気がしました。医療接遇は「言葉遣いに固執せず、心遣いに比重を大きくする」「感じのよい笑顔を多用する」「心のあたかさをスキンシップで伝える」という内容でした。ポイントをおいた対応をすれば、感じのよい職員に必ずなれると思えました。心遣いには相手をきちんと観察し、それをアセスメントすることが必要です。ポイントの合ったセンスのよい対応を心がけたいと思えました。講師の細田さん自身が本当に感じのよい方でした。観察力・判断力も突出しておられ、外見も清潔感たっぷりの美しい方です。見習うべきところがたくさんありました。

接遇は医療になくてはならないスキルです。井原市民病院で働いていることが自慢になるように、接遇力を高めていきたいと思います。



## 医療安全研修を終えて

医療安全管理室長  
看護師長

森 茂子

11月5日(水) 損保ジャパン日本興亜の橋本勝氏を講師にお迎えし、「医療リスクマネジメントとヒューマンエラー」と「病院が加入している損害賠償保険について」の研修会を開催しました。

人はどのような時に間違いを起こすのか？私たちの注意力には限界がある。バスケットをしている場面で、白い服を着ている人のパスの回数を数えてくださいと言われて動画を見た。一生懸命白い服とボールを追っていると、なんと画面の真ん中にゴリラが現れていた。しかし、全然気付かなかった人もいた。私たちは、自分の関心事や事象の流れで物事を見て判断してしまう傾向がある。また、行為を中断され別の事を行った後に中断した行為の内容を忘れてたり、別の記憶に入替っていることもある。

また、新人は、意識しすぎて周囲に注意がいかなくてエラーが起きる。ベテランは、体に刷り込まれている作業を無意識に行動してしまいエラーが起きる。

では、ダブルチェックやトリプルチェックをしていればエラーは防げるか。なぜか人の目が多くなってもエラー発見率は上がらない。いわゆる、社会的な手抜き現象。〇〇さんが確認しているから大丈夫。人は間違いを起こすもの。絶対大丈夫とは言えない。では、何をどのように確認するか。ダブルチェックも2人が全く同じ方法で確認してれば、同じ間違いを起こす。

確認の方法を変える。また、多忙な時、非常に興奮している時には、エラーが起きやすい。

では、どうやってエラー防止をするの？

JRの駅でよく見かける指差呼称をしましょう。指差呼称により、①対象の明確化②注意の集中と記憶の明確化③目と耳による多重確認④脳の覚醒⑤反射的な行為や判断の抑制 以上の効果があり、約6倍もエラー発生率が減る。

一人ひとりのエラーを回避していくには、確認の方法をシステム化し、スタッフ全員で同じ方法で確認すること。

### 根づかせよう安全文化 みんなの努力と活かすシステム 医療事故 最後の砦は わたし自身



## BLS研修を終えて

医療安全管理室長  
看護師長

森 茂子



当院では、全職員を対象に“全ての病院職員が急変時の対応ができる”ことを目的にBLS研修を井原地区消防組合の協力を得て実施しています。今年も7/2.3.9.10と計画しました。

初日は、段取り不足にていきなりデモストに入ったりと右往左往しましたが、2日目は、全体説明に寸劇

を取り入れたお陰で、和やかに会が進行したと思っています。年に1回のことでも忘れた方や初体験の方たちからは、「わかりやすかった」「スタートコールの番号がわかった」「気道確保の方法が分かった」、ベテランスタッフからも「忘れていたので、再確認できた」など好評でした。

今回、台風の接近、広島市の土砂災害の影響で後半の日程が10月まで延びました。

“職員一人ひとりの連携が患者を救う”をモットーに毎年研修を実施していきます。

(参加者：224名)







平成 26 年 12 月 11 日(木)、今回で 3 回目となる院内緩和ケア研修会を開催いたしました。福山市民病院のがん診療統括部次長・緩和ケア科統括科長である 古口 契児 先生をお迎えして、「アドバンス・ケア・プランニング (ACP) を知っていますか？」をテーマに講演を行って頂きました。当日は院外から 5 名を含む 86 名の方が参加されました。

内容としては、リビングウィル、DNAR (急変時または末期状態で心停止・呼吸停止の場合に蘇生処置をして欲しくないという患者の意向) などの用語説明から、今回のテーマである ACP は、DNAR を確認するための作業ではないこと、『本人がどう生きたいか』、『家族や医療者がその思いをどう支えるか』、ACP における重要な事項、なぜ必要か、進め方のポイント、ACP の概念を通してわかることなど、わかりやすく話をされました。

そのあと、参考資料として持参された広島県版 ACP を用いて、どのような流れで取り組めば良いかなど具体的な説明がありました。ほとんどの方が「ACP」という言葉を初めて耳にして、新しい知識の習得になったのではないかと思います。

日本では、2005 年に死亡数が出生数を上回り自然減に転じて、平均寿命は、男性 80 歳・女性 86 歳と超高齢化社会に突入しています。自分のことが自分で決められる時に家族で話し合う機会の一助として、まずは、自分や自分の家族から ACP を行うようにしてもよいのではないかと思います。

「がんの終末期だけでなく、元気な時から、がん以外の疾患の方にも必要な内容であるが、広島県での取り組みの現状について、どのように ACP を進めていかれているのか」との質問がありました。まだ広島県東広島市での活用であり、これからどのように取り組んで行くかが今後の課題であるとの回答でした。



## 第 2 回 ICT オープンカンファレンス

感染管理認定看護師 柳本 亜由美

世界を震撼させているエボラ出血熱の感染拡大や薬剤耐性菌による感染症、デング熱など、近年、感染症対策は医療施設における重要課題となっています。医療機関関連感染は免疫力の低下している患者さんに発生することが多く、元々の疾患への悪影響、入院日数の長期化、医療費の増大に繋がります。医療の質の面、医療経済の面からも大きな問題となっています。

地域医療圏内の皆様と感染対策に関する情報提供・啓発を目的とし 10 月 23 日に山口大学医学部附属病院薬剤部准教授・尾家重治氏をお招きし「洗浄・消毒の落とし穴」をテーマに第 2 回 ICT オープンカンファレンスを開催いたしました。お茶に抗菌作用はないことや「除菌」は必ずしも「消毒」ではないことなど薬剤師からの視点での身近な感染対策について説明していただきました。院内外より 180 名もの方にご参

加頂き、大盛況で研修会を終えることができました。今後も感染症から地域を守るためにこの取り組みを継続していきたいと思えます。





## 井原市民病院 第4回 健康まつり

平成26年11月16日(日)、今年で第4回となる井原市民病院「健康まつり」を開催いたしました。地域と共に歩む、地域に開かれた身近な病院を目指すこと、健康の大切さを地域住民とともに改めて考え、市民の皆様と病院スタッフの交流と市民病院を開放し、より理解していただくことを目的に開催。前年度を上回る多くの方々が来院してくださいました。山田院長の挨拶で始まり、特別公演としてパンフルート奏者、備前の風・今井 勉先生をお迎えして、演奏と先生ご自身が体験されたうつ病から回復へのお話をいただきました。パンフルートのその音色は、先生のすばらしい歌声と軽快なトークとともに、心癒され、元気をいただいたひとときとなりました。

今回も多くの方々のご協力をいただき、各種体験コーナー、催しを行い、最後は病院職員有志による「井原☆まんてん」踊りで閉会しました。

ご協力くださいました皆様に心より御礼申し上げます。

特別公演 今井 勉先生のパンフルート演奏



出部保育園児による鼓笛隊



薬剤科 軟膏づくり体験、お菓子で分包機体験



なりきり看護師さん『かわいいー』



放射線科・市役所職員有志 パルーンアート



ICTチーム 光るバイキン見てみよう





リハビリテーション科  
転倒リスクチェック(転倒予防教室)



栄養科 『1日の野菜足りてますか?』  
1日の必要野菜量を計ってみよう



自治体病院学会発表を展示



放射線の歴史 展示



検査科 血管年齢測定



興譲館高校チアリーディング  
昨年に引き続き今年も寒いなか、がんばってくれました



ファイナーレ  
職員有志による『井原☆まんてん』踊り



井原消防署 AED講習 救急車の中を体験





## 地域医療実習を終えて



岡山大学医学部 1 年生 原田 佳奈

この度、平成 26 年 9 月 22 日から 26 日まで私の地域医療実習を受け入れて下さりありがとうございました。この井原市民病院では一年生の授業では学べないことまでたくさん経験させていただき、充実した一週間を送ることができました。我々は最先端技術を利用した医療に目が向きがちですが、地域医療に参加させて頂いたことで高齢化が進む日本の未来の医療に必須である地域医療包括ケアシステムを支えていく為の予防医療や他職種連携、ジェネラル医の存在等の重要性を肌身で感じる事ができました。今回の実習を通して、これからは患者さんに寄り添い、他の医療職種の方々と上手く連携しながら地域の医療を支えていくことのできる医師になりたいと強く思うようになりました。最後になりましたが、一週間御指導して頂いた山田院長先生を始めとして、井原市民病院の医療従事者の方々や事務を担当されているの方々、快く見学させて下さった患者さんに御礼申し上げたいと思います。本当にありがとうございました。



岡山大学医学部 4 年生 成田 周平

この度、平成 26 年 11 月 10 日から 14 日まで一週間井原市民病院で実習をさせていただき、大変お世話になりました。様々な診療科の見学や訪問介護やリハビリへの同行、カンファレンスの参加など、普段の授業ではできない経験をさせていただきとても貴重な経験になりました。

今回の実習を通して、実際の現場の先生方やスタッフの方々からお話を聞くことができ、大学病院とは違った医療体制があり、地域の中核病院として井原市民病院がどのような工夫をしているか知ることができ、地域

医療のやり甲斐についてより考えることができました。また、医師だけでなく、多くの医療スタッフの協力があってこそ十分な医療を提供することができているということを実習でより印象強く感じました。

この一週間の実習は、自分の中での地域医療のイメージを大きく変化させた貴重な体験であり、これからの自分の将来に活かしていきたいと思います。お忙しい中、今回の実習に時間を割いていただき、多くのことを学ばせていただきありがとうございました。



岡山大学医学部 4 年生 植生 典秀

今回、平成 26 年 11 月 10 日から 5 日間、地域医療実習として井原市民病院で実習をさせていただきました。外来の見学や消防署の見学などいろいろな知識を得ることもできましたが、やはり一番の経験は「地域医療はどんなことをしているか」ということを学んだことでした。医師が少ないといわれる地域で多くの患者を受け入れ治療するために、コメディカルの方々がいろいろな会議に参加して医師の負担を軽くしているということがわかりました。チーム医療というだけあって、信頼関係ができていないとこんなにも医師をサポートしないだろうと思います。訪問看護や訪問リハビリでコメディカルの方々が出向くことによっても患者さん、医師両方に負担がなくなるようになっていたと思いました。この実習による経験は、例え地域医療に従事しないとしても患者さんやコメディカルの方々を考える気持ちを持つためにあってよかったと思います。1 週間付きっきりで案内してくれた事務部長の野崎さん、看護師の視点からお話くださった渡邊さん、理想とする地域医療についてお話くださった院長の山田先生、他の職員さんにはとても感謝しています。ありがとうございました。

## 地域看護学実習 I、II の受入れ

看護部・地域医療連携室

平成 26 年 9 月 8 日～ 19 日、10 月 6 日～ 17 日に地域看護学 I、10 月 6 日～ 10 日、10 月 14 日～ 17 日に地域看護学 II の臨床実習を受入れました。吉備国際大学の看護学生、各期間 2 名ずつの受け入れで、地域看護学 I では訪問看護を、地域看護学 II では退院支援を中心に実習を行いました。訪問看護センターでは初めてで、地域医療連携室では 2 年前に一度、社会福祉士の実習受け入れをしたことがあるので

すが、今回保健師（看護師）の分野での受け入れは初めてで私たちもちょっと緊張しながらの実習指導でした。

地域看護学 II では実習期間中に行った NST の『地域栄養研究会』、『まいづる連携』に参加し、当





院の行っている地域との連携について直接体験することもできました。学生さんたちにとって当院での実習が最後の実習になり、終了した際はとてもうれしそうな顔をしていたのが印象的でした。地域看護学Ⅱでは地域看護学Ⅰを実習した2名を含む実習を終えました。学生さんはこれから国試に向かってしっかり頑張

って行かれるとのこと、井原市民病院からもエールを送ります。頑張ってください！！



## 2014年度認定看護管理者教育課程ファーストレベル研修を終えて

外来 看護師長 崎谷 由美子

平成26年5月10日から8月12日まで、合計150時間の日程で、日本看護協会認定看護管理者教育課程ファーストレベル研修を受講させていただきました。岡山県内の様々な規模の病院から70名の受講生が集まりました。ファーストレベル研修の目的は、『看護を提供するための組織化並びに運営の責任の一端を担うために必要な知識・技術・態度を習得すること』とあります。

研修を受ける前は、看護師長職を漠然ととらえていて、何をすべきか、私自身の柱みたいなものはありませんでした。講義を受けていくうちに、自分がやるべきこと、やらなければならないことが少しずつ明確になってきました。

私自身が最もすべきであると感じたのは「標準化」に取り組むことです。外来受診しても、どこの病棟に入院しても、安全で標準化された看護が受けられるようにシステムを整理しなければならないと思いました。看護基準や手順を定期的に見直して、看護師全員が同じ行程で看護サービスを提供することが必要であると思います。「A病棟の看護師さんがする吸引と、B病棟の看護師さんがするのとは違うなあ」と患者様に感じさせてしまうことで、患者様は不安感を覚えます。新人からベテラン看護師まで手技の上手下手はあるかもしれませんが、どの看護師がしても同じ手順で実施することで患者様に安心してもらえます。

二番目にすべきことは、新聞や看護雑誌を読んで、医療をめぐる社会情勢に敏感になることです。今年4月、診療報酬の改訂がありました。時代は超高齢化社会に突入し、急性期医療から回復期医療に重点がおかれはじめました。当院においても地域包括ケア病床が県内でもいち早く取り入れられ、急性期病院から転院されてくる回復期の患者様の受け入れ態勢が整えてられてきました。団塊の世代が後期高齢者となる2025年には、病床が不足し入院治療が困難な時代が到来すると予測されています。医療をめぐる社会情勢を情報収集し、患者ニーズに合った医療・看護サービスの提供を常に考えていかなければならないと感じています。新聞を読む習慣がありませんでしたが、講義を受けてからは、

なるべく読むように心がけています。

そして、看護師として常に忘れてはいけないことは、患者様に寄り添い、人間としての尊厳と権利を尊重することです。研修の中でどの講師も言われたことは、「患者様が中心」というキーワードです。看護師は他の職種とは違い、24時間患者様の傍にいます。患者様にとって、良いこと?悪いこと?とジレンマを常に感じながら接しています。例えば、「高齢のAさんの胃に癌が見つかりました、現段階ではリンパ節転移は否定できず、手術で完治できるかどうかは50%の割合です。Aさん本人にも告知しましたが、高齢を理由に手術を拒否されました。医師は手術を受けるよう説得しましたが・・・。」患者様の思いを受け止めることも大事、でも治療も大事です。このようなケースで患者様と医師との調整役を担うのも看護師です。念頭に置くべきことは、患者様の思いが置き去りにになっていないかと配慮することです。どの講師も「看護師はミニドクターではありません。患者様の看護をすることが職務です。」と言われました。看護管理を学ぶ中で、看護の基本を改めて気付かされました。

今回の研修で、看護管理について学びましたが、私自身の一番の収穫は、一緒に学んだ70名の仲間達との出会いでした。当院のような地域に密着した病院や、大学病院、専門病院、診療所など様々な医療現場で働く仲間と情報交換し、これまで以上に視野を広げることができました。また、悩みを共有したり、相談にのってもらったりと、かけがえのない友人をつくることができました。

今後も、より多くの看護師がこのような研修を受講できれば良いのですが、期間も長く、現場を離れての講義なので、スタッフの協力と理解がなければ、受講することは困難です。受講を終えた者として、これから、看護管理をめざしていく看護師が安心して受講できるよう職場環境を整えていくことが私の責務であると思います。最後にファーストレベル研修を受講させていただいたことに、深く感謝申し上げます。



## 第53回全国自治体病院学会に参加して

第53回全国自治体病院学会が、去る10月30日・31日、宮崎市のフェニックス・シーガイア・リゾートにおいて開催され、当院からは下記の4部門、4題のポスターセッション発表を行いました。また、発表の一部を紹介します。

発 表 演 題	部 署・発表者
ピロリ菌感染を考慮した胃がん検診（胃透視）への取り組み	放射線科 小森 陽一郎
当院の栄養サポートチームの活動状況と臨床検査技師の役割について	検査科 小車 翼
要介護度の変化から見た訪問リハビリテーションの効果	リハビリテーション科 楠間 基祥
看護師による死後の処置の実施状況とエンゼルケア観との関係	看護部5階病棟 池田 朋子、佐藤 真理子

### ～ピロリ菌感染を考慮した 胃がん検診（胃透視）への取り組み～

放射線科 小森 陽一郎

平成26年10月30日、31日に、宮崎市のフェニックス・シーガイア・リゾートにて開催された、第53回全国自治体病院学会に参加、発表してまいりましたので報告いたします。

私の自宅（福山市内）から宮崎駅までは、公共交通機関どの経路を使っても、かなりの時間を要しますので、移動だけでかなり疲れてしまいました。しかし、宮崎市内に入ると曇ってはいましたが、たくさんのヤシの木に迎えられて、南国ムードに癒されました。

私にとっては初めての学会発表でしたが、看護師の500数十名をはじめ、各専門職種から、非常にたくさんの方々に参加されていました。多職種の方々の、多岐にわたる発表を一堂に会して聞ける機会は、ほとんどなく、貴重な体験をさせていただき、たいへん勉強にもなりました。我が放射線技師分野においても、94名もの参加者がおられましたが、なぜか私がオオトリの94番目に発表しました。その発表の内容を、以下簡単に報告いたします。

#### 【目的】

・積極的なヘリコバクター・ピロリ（以下Hp）感染胃炎の検索。

平成25年2月にHp感染胃炎への除菌治療が保険収載（しゅうさい）され、胃がん検診の分野においても、『胃がんなければ異常なしの時代から、Hp感染検索の時代へ』と発展している背景を受けたものです。

・検査レベルの向上。

検査の目的や注意点等をしっかり意識するなど、検査レベルの向上を目的としました。

#### 【対象と方法】

当院の人間ドック胃透視検査受診者の方々において、集計期間2014/03/20～2014/08/31の間に施行した294件の検査の内、私が担当した146件の検査を対象にして、胃透視検査終了時に、Hp現感染、あるいはHp既感染が疑われる受診者に、画像についての説明を行って、Hp抗体検査を受けていただくように促し、その中から希望者に、Hp抗体検査を受けていただきました。そして、その抗体検査結果の集計を行いました。

#### 【結果】

146件の検査の内、私がHp感染が疑わしいと感じた方は27名で、その方々にHp抗体検査を受けていただくように促し、23名にHp抗体検査を受けていただきました。そのうち陽性が13名、陰性が10名で、陰性10名のうちの5名は、陰性高値（つまり抗体価3.0～9.9）であり、この方々はHp既感染者であると思われ、つまりHp抗体陽性の13名と合わせ、Hp現既感染疑いが18名でした。

#### 【結論】

若干数ヶ月の期間での、若輩者の取り組みであり、最初は受診者への説明も上手くできませんでしたが、検査を進めていくたびに、それなりに自信もついてきて、声をかけたほとんどの方（85.1%）にHp抗体検査を受けていただきました。その結果78.2%がHp現既感染群でありました。積極的なHp感染胃炎の検索については、成果が得られたと思っておりますが、私が担当した146件の検査数に対してのHp現既感染者発見率は、日本人全体のHp現既感染者率とくら



べると、まだまだ低くなっていますので、今後もしっかり勉強して、Hp 現既感染者発見率の向上に努めていきたいと思ひます。

また、検査レベルの向上について、これは数値で表すのは難しいものの、胃粘膜の状態や、ひだの形状などを、より注意して観察する様になり、以前よりもしっかりと目的意識を持って、検査に取り組めるようになりました。こちらもそれなりの成果だったのではないかと思ひます。

### 【今後の見通し】

ピロリ菌感染胃炎への除菌治療が保険適応になりましたので、これからは胃がん検診の場にも、ピロリ菌除菌後の患者さんが増える見込みです。そうなりますと、我々放射線技師にとって、これは Hp 現感染なのか、既感染なのかと、いわゆる悩める画像が増えてくると思われます。

### 【課題】

当院でも、今一度、基本的撮影法の見直しや、知識、技術の共有を図っていきたく思ひます。

また、現在の当院の状況では、読影医と放射線技師の間に所見のズレがあることがありますので、今後、読影医ともしっかり話し合いをしていきたく思ひます。

Hp 抗体検査だけでは、実は高リスクな方々を見落としているかもしれないということも考えられますので、胃がんリスク検診 (ABC 検診) の導入も検討していきたく思ひています。

それに伴って、除菌歴の有無を含む検査前の問診も充実させていきたく思ひています。

今回の取り組みを行って見て、女性の間ドック受診率が低いことがわかりましたので、女性の受診率向上にも取り組んでいきたく思ひます。

発表では、技師だけでなく医師の方からも質問をいただいで、限られた時間の中ではありましたが、意見交換をすることができました。胃透視の診断能は胃カメラの診断能に劣る点がありますが、需要も高く、人間ドックの分野においても、果たすべき役割は多いと考へています。

今回の取り組みのために、多くの受診者の方にご協力いただきました。本当にありがとうございました。また、当院の放射線科をはじめ私の取り組みに関わって下さったスタッフのみなさん本当にありがとうございました。今回たくさんの方々のおかげで得られた知識や経験を活かして、今後も地域医療へ貢献できるように学習を重ねていきたく思ひます。

## STOP温暖化 緑のカーテンコンテスト 2014

副看護部長・地域医療連携室長 渡邊 栄子

### 優秀賞受賞



平成 26 年 12 月 23 日、岡山県環境保全事業団主催の【STOP温暖化緑のカーテンコンテスト】において優秀賞に選ばれ、岡山コンベンションセンターでの表彰式に出席しました。このコンテストは今年が7回目となり、生育状況・省エネ効果・創意工夫の視点から審査がなされ、応募総数214点の中、最優秀賞4、優秀賞8が選ばれました。

『外来中庭のゴーヤを応募してみては?』というお勧めもあって応募したところ、企業・団体の部門の優

秀賞をいただきました。病院ボランティアの方をはじめアドバイスくださった患者様、病院スタッフへこの場を借りてお礼申し上げます。次回は最優秀賞を目指して頑張ろうと思ひます。皆様の応援よろしくお願ひします。



## 新人紹介

名前 担当科 ①抱負 ②趣味・特技



関藤 恭弘 (臨床検査技師) 臨床検査科  
①信頼される技師を目指して頑張ります。  
よろしくお願ひ致します。  
②バレーボール、読書



池口 美佳 (看護師) 4 階病棟  
①ブランクがあるため、常に学ぶ姿勢を忘れず、また笑顔を大切に患者様と向き合っていきたいと思ひます。  
②旅行と食べ歩き、陶芸が趣味です。特技は料理です。



## まいづる保育園だより

### 「クッキング」



昨年の11月6日(木)は、親子でサンドイッチを作りました。トマトやきゅうり、チーズなど子供たちは好きな具材をパンにはさみ、大きなお口でパクリ!

一口、口の中に入れるとおいしそうな顔をする子供たち。親子で会話を楽しみながら食べる子もいれば、「お母さんにもちようだい。」という言葉にも耳も傾けず、黙々と食べる子など様々でしたが、最後にはみんな「おいしかった!」「おなかいっぱい。」との声が聞かれて、私たち保育士も大満足でした。

### 「クリスマスミニ発表会」

12月27日(土)は少し遅めのクリスマスミニ発表会を行いました。

演目は、0歳児による踊り「どうぶつたいそう1・2・3」、2・3歳児による踊り「恋するフォーチュンクッキー」、そして全員による劇「おべんとバス」でした。

11月中旬から踊りの練習を始め、劇の練習は12月から始めましたが、みんな楽しみながらも練習を頑張ってくれました。

発表会当日は、不安で泣いてしまう子、大勢の保護者の方の前で緊張してしまい、練習どおりに踊れなかった子もいましたが、初めて保護者の方と離れてのイベントを経験する子がほとんどだったので、みんなよく頑張ってくれたと思います。

今年も保護者の方も楽しめるようなイベントを予定しています。



※写真は練習風景です。

## ロビーコンサート



平成26年11月6日、外来ロビーにてトランペット奏者の崎谷由佳利さんとピアノ 安部千晶さんによるトランペットコンサートがありました。

当院の外来ホールには2008年6月からグランドピアノが置いてあります。これは、前井原市議会議長の高田正弘

氏が当院5階病棟(療養病棟)の片隅で眠っていたピアノをみつけられ、外来ホールにおいたものです。これをきっかけに、高田氏が崎谷さんに市民病院でも患者様にコンサートを行うよう要請されたのが始まりで、以後、毎年、秋深まるこの時期に開催、今年で7回目とのことです。また、高田様のご厚意によりピアノ調律の準備をしていただいております。

コンサートは、クラシック、今年流行の映画『アナと雪の女王』の主題歌、童謡『もみじ』『故郷]、ポップスと幅広く演奏されました。最後は、参加者全員で『故郷]合唱して終わりました。この『故郷]は、生まれ、育ててくれたこの井原への思いを込めて毎回必ず演奏される曲目とのことです。来院された方も足を止めて聴いておられ、心和むひとときを共有することができました。

## 季節の献立

お正月やクリスマスなどの季節の行事を楽しんでいただけるような食事作りを心がけています。お正月を感じていただける料理と、患者様おひとりおひとりの名前を入れた年賀状風のメッセージカードを添えました。後日、患者様から「年賀状ありがとう!」とお声をいただきました。また、クリスマスには、クリスマスカードと調理師自らの手作りケーキを提供いたしました。

1月1日

### <元旦の献立>

お雑煮(すまし汁:ぶり、大根、人参、ほうれん草、丸もち)  
祝肴(栗きんとん、かずのこ、黒豆、かまぼこ、カニ錦糸茶巾)  
紅白なます、みかん



12月24日

### <クリスマス献立>

ご飯、鶏のソース焼き、サラダ、洋風スープ、手作りケーキ



### ボランティアの会「ひまわり」による花壇活動

毎年、春と秋、当院のボランティアの会「ひまわり」の皆さんにより、玄関前の花壇の環境整備をしていただいております。11月初旬、秋～春バージョンに衣替えし、色とりどりのパンジーが来院者の目を楽しませてくれています。

